

コロナ禍での町工場の奮闘

株式会社来島化成

代表取締役 澤田純二さん

(野苺)

会社の概要は

事業内容は合成樹脂加工。平成2年に任天堂ゲーム機のハーネス製造を生業として起業。その後、自動車の緩衝材(パッキン)製造に転換し、平成18年に法人化しました。

一昨年、コロナの影響でマツダが稼働を制限したため、一時は売上が6割まで落ち込みましたが、懸命に進めてきた顧客開拓が、徐々に実を結び始めています。

現在は、自動車部品分野(ブリヂストンや西川ゴムなど)での売上高が2400万円(年商換算)。弱電系部品分



左から澤田社長・洋佑部長・勇祐専務

特徴や強みは

充実した機械設備を保有していること。これにより、顧客のリクエストに応えること

野(村田製作所とホシザキ)の売上高が約1000万円。これを従業員7名(役員3名を含む)で運営しています。

事業承継を進めるべく、5年前に長男勇祐(38歳)を、昨年8月には次男洋佑(35歳)を会社に迎えました。若者の行動力と発想のお陰で、会社に活力が生まれたように思います。

ができています。技術面では、ハーフカットの型抜きと、連続プレス。この技術と品質には自信があります。県内有数の技術が、顧客開拓と製品分野の拡大に繋がっています。

今後の展望や課題は

マツダが好調だった頃の売上高が5000万円でした。当面は、それを超えることが目標です。自動車部品だけに頼ると、企業業績の変動に対応するのが大変でした。弱電関係の製品拡大と新たな業態の顧客開拓を進め、景気変動に左右されない強い企業体質への転換を目指し進めているところです。

課題は人材の獲得。5000万円を売り上げるには、人材の獲得が不可欠です。今のところは、ハローワークと町人材確保センターが頼みの綱です。今後は、外国人技能実習生の活用も視野に検討していく必要もありそうです。

勇祐氏(専務取締役)の夢は

既存の部品点数も増やして

いきたいし、新規顧客も開拓していきたい。そのために、ビジネスマッチングにも積極的に参加していこうと思っています。

「新しい設備を入れ、新しい人を採用して」という流れを作り、皆が目標に向かって働けるような一体感のある会社にしていくのが夢です。先頭に立ち、向上心を持って仕事に取り組んでいきます。



油圧プレスを使った製造工程



製品検査の様子



「明日を拓く」で取り上げてほしい会社や個人、団体、行事やイベントなどの情報をお寄せください。取材に伺います。議会報の表紙に使う写真の募集も併せて行います。自薦他薦は問いません。皆様からのご応募をお待ちしています。

《応募先》飯南町議会事務局 0854-76-2190

今月の表紙写真



これは毎年元旦に開催される頓原の「元旦マラソン」の1シーンです。屋根や道路に積もった雪の中、およそ2キロのコースを約50人が参加して走りました。これは頓原公民館の主催で、交流センターとんばらをスタート、町区連坦地と県道を一周するマラソンです。頓原の恒例行事で、元気いっぱい走り回る子どもたちの原体験として、記憶に深く残っていくことでしょう。